

こんなとき、どうする!? ～4つの立場から～

1 主 題 「いじめ」をなくそう

2 主題・教材について

いじめは、時として人の命までも奪う重大な人権侵害である。にもかかわらず、いじめを根絶することができずにいる要因の一つとして、いじめている者がその事実気づいていないということが考えられる。当初は悪ふざけであったものが、悪口・陰口、ふざけ合いに見せかけた暴力、金銭の強要、暴行、あるいは無視、仲間外し（排除）というように、エスカレートし、気づいた時には引き返すことが困難になっていることも多い。

いじめは、「いじめる者（加害者）」と「いじめられる者（被害者）」だけでなく、はやし立てたり面白がったりしていじめを助長する「観衆」、黙認している「傍観者」という4層構造から成ると言われており、全ての人がいずれかの立場に属している。また、「傍観者」の中には、見て見ぬふりをしてはいるが、いじめを止められずに悩んでいる者も含まれている。

4つの立場のうち、加害者、観衆、傍観者は自らの立場を自らの意思で変えることができるが、被害者だけはそれができない。ゆえに、いじめをなくすには被害者を除く3つの立場にいる者の変容が不可欠である。

この教材では、いじめを描いた場面を見て、4つの立場について考えさせる。その上で、全ての人がいじめに関わっていることや、被害者を除く3つの立場にいる者の変容によって、いじめを止められることを理解させたい。特に「傍観者」の立場の者が「いじめは許さない」という声を上げることが重要である。そのためにも、だれもが自分の思いを語ることができ、みんながその思いを受け容れることのできる集団づくりの取組を日常的に進めておくことが肝要である。子どもたち一人一人に集団の一員としての自覚、いじめを根絶する主体者としての自覚をもたせる取組として展開したい。

（関連教科・領域：道徳、特別活動）

- ## 3 ねらい
- いじめを集団の問題として捉え、いじめが起こったときに他者と協力することも含めて、どのように行動すればよいか、具体的に考え、行動する力を付ける。
 - 他者の置かれている立場を想像し、痛みを感じ取る感受性を育む。

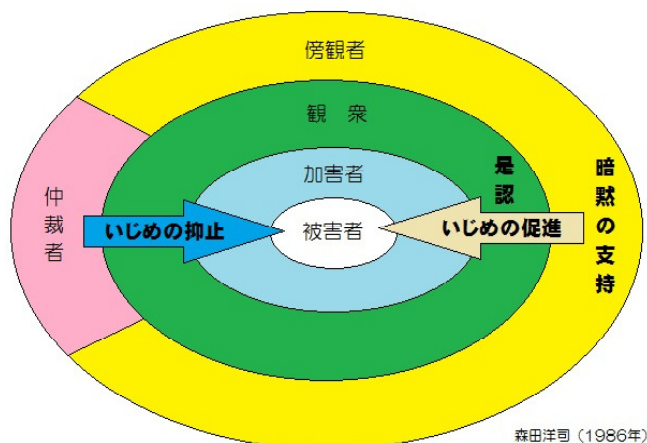
4 展開例

過程	主な学習活動	指導上の留意点	備考
導 入	いじめにおける4つの立場を確認しよう。		DVD 参考
	教材に描かれているいじめの場面で、どのような立場の人が描かれているか確認する。	「被害者」「加害者」「観衆」「傍観者」の4つの立場を整理する。 - 誰もが4つの立場のいずれかに属していること、それゆえ、いじめはその集団に属する全ての人の問題であることを確認する。	
展 開	「被害者」の立場に立って考えよう。		ワークシート
	1枚目の絵を見ながら、被害者の立場に立って考え、選択肢から選んで答える。 - セリフを考えてロールプレイを行う。 - 被害者の立場に立ってみて、感じたこと、考えたことを発表する。	- 選んだ理由についても考えさせる。 - 複数選んでもよいことを伝える。	
展 開	「加害者」について考えよう。		ワークシート
	2枚目の絵を見ながら、加害者はなぜいじめするのか、いじめをやめられないのか	- 自由に意見を出させる。 - なぜいじめてしまうのか、加害者の	

展 開	を考える。 ・加害者の立場に立ってみて、感じたこと考えたことを発表する。 ・どうすればいじめやめることができるのかを考える。	心の内にあるものと向き合わせる。	
	「観衆」について考えよう。		
	・3枚目の絵を見て、観衆は自分のことをどのように思っているのかを考える。 ・被害者から見れば、観衆はどのような人として見えているかを考える。 ・観衆が周囲に与える影響についても考える。	・観衆は直接いじめているわけではないが、いじめを助長していること、被害者から見れば、観衆も加害者と変わらない、いじめの人であることに気づかせる。	ワークシート
	「傍観者」の立場に立って考えよう。		
開	・自分自身がこのような場面を目撃したらどうするかを考え、選択肢から選んで答える。 ・傍観者の気持ちを想像する。 ・被害者から見れば、傍観者はどのような人として見えているかを考える。	・その行動を選んだ理由についても考えさせる。 ・⑤は、自由に意見を出させる。 ・被害者から見れば、傍観者は味方ではなく、むしろ加害者に近い人たちに見えることにも気づかせたい。	ワークシート
	いじめを解決する展開を創作しよう。		
ま と め	・自分の意思で立場を変えることができないのはどの立場かを考える。 ・被害者の味方になれそうなのはどの立場かを考える。 ・傍観者が被害者に寄り添い、いじめを止めるために何ができるかを考える。 ・いじめが解決したというラストシーンを設定し、グループで創作した解決までの展開を発表する。	・被害者の立場は自ら容易に変えられないこと、また、周囲が変わり、味方になればいじめは止められることに気づかせたい。 ・1人でできることだけでなく、仲間と共にできることを考えさせる。 ・傍観者の立場に焦点を当てた展開を考えさせる。 ・実際に劇化し、人権集会等で発表することもある。	
	学習をふり返ろう。		
ま と め	・学習をふり返り、学んだことについて話し合う。	・いじめを許さないという強い意思、また、集団の力によりいじめに歯止めをかけることができるという展望と確信をもたせる。	

《参考》

「いじめの4層構造」



被害者…いじめられている人

加害者…いじめている人

観衆…いじめをはやし立て、おもしろがっている人

傍観者…いじめに加担しているつもりはなく、被害を与えることをしていないが、いじめを止めようとする行動をしない限り、被害者には加害者側に立っていると捉えられる人。

こんなときどうする!?! ~4つの立場から~

1 ^ひ被害者の立場に立って考えよう。

クラスメイトが数人で、あなたの悪口を言いながら小突いたり、物をよこせと強要したりしています。
あなたはどのようにしますか？

- ① 何もしない。
- ② やめてほしいと伝える。
- ③ 仕返しする。
- ④ 友人や保護者、先生などに話す。
- ⑤ その他（ ）

2 **加害者**について考えよう。

なぜいじめるのでしょうか。なぜいじめをやめられないのでしょうか。

--

3 **観衆**について考えよう。

観衆は、自分のことをどのように思っているのでしょうか。また、被害者から見れば、どのような人として見えているのでしょうか。

--	--

4 ^{ぼう}傍観者の立場に立って考えよう。

このような場面を目撃したら、あなたはどのようにしますか。

- ① 見て見ぬふりをする。
- ② いじめる側につく。
- ③ 友人や保護者、先生などに相談する。
- ④ 後でいじめられている子に声をかけて励ます。
- ⑤ その他（

5 ラストシーンまでの展開を考えよう。

[illegible]

名前